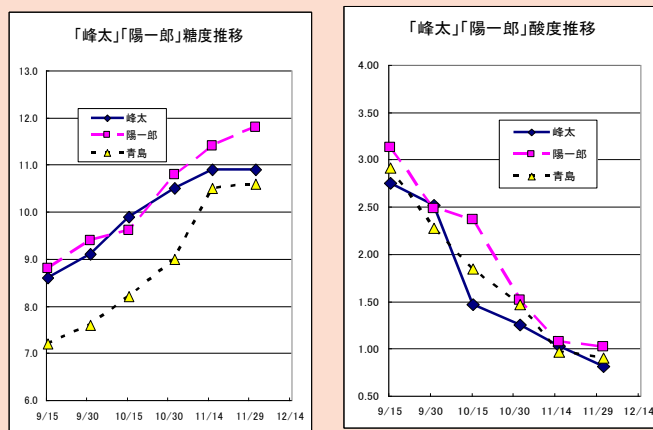


- 本県の主力品種である青島温州は、**温暖化**等の影響で、着色不良や**浮き皮**、秋季の温暖多雨により果実品質の低下が問題となっている。
- 当県で発見された新品種の特性を確認するため、**実証ほを設置**。
- 新品種の特性を周知するため、実証ほの巡回や研修会、栽培講習会を**普及員、JA職員を対象**に行った。
- その結果、新品種の特性、形質が理解され、**栽培面積が増加**。

具体的な成果

1 品種特性の確認



2 品種特性の周知

- 品種の普及拡大を推進するため、実証ほの巡回、研修会を開催し、新品種の特性が理解された。



現地巡回 3回、研修会2回、講習会1回

3 栽培面積の拡大

- 新品種の栽培面積 (ha)

品 種	H26	H27	H28
峰 太	14.5	31.5	31.5
陽一郎	2.3	3.0	3.0
合 計	16.8	33.5	33.5

普及指導員の活動

平成26～28年

- 優良品種推進協議会が発足。
- 実証ほ設置、調査・データ集積。
- **浮き皮の発生が少なく、品質、形質の優位性を確認**。

平成27～28年

- 新品種の普及員等による巡回・調査を行い、品種特性の周知を図った。
- 管理技術の研修会の開催し、**管理技術を習得**させた。

平成29年

- 各地域で**生産者を対象に新品種の特性を周知**、普及指導員が新品種の栽培を推進。

今後の課題

- 苗木の生産、供給体制の検討
- **新品種のブランド化**の検討

普及指導員だからできたこと

・ 実証ほを設置し、調査、巡回を行うことで、品種の特性が理解されやすく、生産者への情報伝達がスムーズに行えた。

・ **普及指導員が品種の特性を理解し、管理技術を習得してから生産者へ栽培拡大の推進を図ったことで、生産者への対応が迅速に行えた。**

静岡県

柑橘等における優良品種の導入によるブランド化推進

活動期間：平成 26 年度～平成 29 年度

1. 取組の背景

柑橘は、本県果樹の重要な重要な品目であり、中でも主力品種である‘青島温州’では、近年の地球温暖化等の影響に伴い、着色不良や浮き皮、秋季の温暖多雨の影響により果実品質の低下が問題となっている。産地からは、上記の問題を克服するポスト「青島温州」を求める声も上がってきていた。

静岡県経済連が中心となり勧めている柑橘品種探索事業により発見された青島温州の枝変わり 2 品種（峰太、陽一郎）は、浮き皮の発生が少なく、品質が優れていることが報告されている。

そこで、県柑橘技術者協議会（経済連、普及、県行政、研究機関）では、現地実証を行い、品種の特性を確認するとともに、普及拡大を図ることとなった。

2. 活動内容（詳細）

(1) 静岡県柑橘優良品種推進協議会の設立（H26）

発見された 2 品種の各地域での特性を確認し、普及拡大するために、県、経済連、JA を構成員とした協議会を設立した。

(2) 現地実証の設置（H26～）

品種の特性を確認するため、現地実証ほを設置し、巡回、調査を行い、特性データの収集を行った。

(3) 品種特性の周知（H27）

これまでに得られたデータを整理するとともに、実証ほの巡回、研修会を開催し、品種特性を普及指導員、JA 職員に周知した。



青島温州(左)と陽一郎(右)



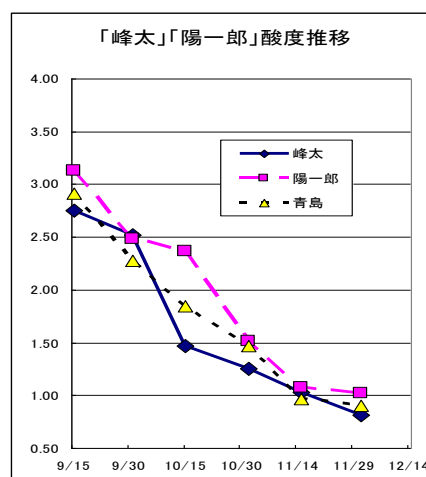
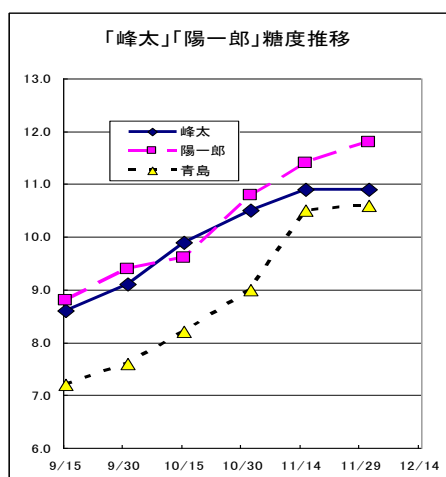
陽一郎(左)と青島温州(右)の着色差



実証ほの巡回の様子)

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 「峰太、陽一郎」の品種特性



「峰太」、 「陽一郎」の貯蔵後の果実品質

品 種	果実重	浮き皮	糖 度	酸 度	着 色	縦 径	横 径
峰 太	93.4 g	0.4	12.9	0.60	10.0	42.8mm	63.2mm
陽一郎	84.5	0.0	13.1	0.95	10.0	44.8	60.7
青 島	92.4	2.5	11.8	0.94	10.0	44.6	62.2

*浮き皮は、0(無)、1(少)、2(中)、3(甚)の4段階を達観で観察

- ① 「峰太」、 「陽一郎」は、青島温州に比べ、糖度が高い。
- ② 「峰太」は、「陽一郎」、「青島」に比べ、酸度が低く推移。
- ③ 「峰太」、 「陽一郎」は、「青島」に比べ、浮き皮が少ない

(2) 「峰太、陽一郎」栽培面積（累計・ha）

品 種	H26	H27	H28
峰 太	14.5	31.5	31.5
陽一郎	2.3	3.0	3.0
合 計	16.8	33.5	33.5

*H29年は、集計中

4. 農家等からの評価・コメント（A氏）

近年の異常気象、特に収穫期に降雨が多く、浮き皮の発生が少ない同品種には期待できる。苗木の需要はあるが、供給量が少ないので、必要本数が確保できない場合は、導入の見送りや少面積から始める生産者が多い。

5. 普及指導員のコメント（農業戦略課 平井）

浮き皮が少ないこと、果実の玉揃いが良いことなど品質が優れており、ポスト青島温州として期待され、面積の拡大・普及を進めていく。

6. 現状・今後の展開等

苗木の生産・供給は、苗木業者との契約生産で、県内への供給に限定されていることから、過度な生産はできない状況である。需要はあるものの、供給量が不足しており、県外への供給も含め、苗木の生産・供給体制の見直し、検討が必要である。

★補足

「峰太」の育成過程

- 平成 11 年に牧之原市内の柑橘生産者が植栽した 1 年生「青島温州」の中から、果実が小さく、糖度が高い 1 樹を発見。
- 試験研究機関、普及、JA が特性調査を実施。
- 品種登録出願：平成 23 年 3 月。
- 出願公表：平成 23 年 6 月
- 品種登録：平成 26 年 2 月

「陽一郎」の育成過程

- 平成 4 年に三ヶ日町内の柑橘生産者みかん園において、「青島温州」の一枝が変異していること発見。
- 試験研究機関、普及、JA が特性調査を実施。
- 品種登録出願：平成 22 年 3 月。
- 出願公表：平成 22 年 6 月
- 品種登録：平成 23 年 3 月